

山口嘉夫先生の紫綬褒賞受賞を祝して

江 口 徹（物理学教室）

本学名誉教授で原子核研究所の前所長であられた山口嘉夫教授が去る4月紫綬褒賞を受賞されました。理学部一同心よりお祝いを申し上げたいと思います。

山口先生は素粒子物理学（理論）の御専門で数多くのお仕事がありますが、中でもよく知られたものに、強い相互作用を行なう粒子の分類と対称性に関する研究（1959年）があります。この研究はその後1960年代に大きく発展したユニタリ対称性やカレント代数の理論等の端初をなすもので、1967年度の仁科記念賞がおくられています。山口先生はまた素粒子論の関連分野、原子核物理・天体物理等にも御造詣が深く、特に運動量空間で因子化した形をもつポテンシャルの模型（1954年）は原子核反応の理論で数多く用いられてきました。

先生は1970年代からIUPAP（国際純粋応用物理学連合）の委員、ICFA（大加速器建設のための国際委員会）の委員長を歴任され、高エネルギー物理学における国際協力に大きく貢献され、日本の高エネルギー部門のspokesman的役割を果たしてこられました。

また1983年から3年間東大原子核研究所所長として研究所の発展に尽力されました。

山口先生の学風は、物理的な直観を重んじ数学的形式にとらわれる事なく自然現象の本質をみぬこうとするもので、御自身のアイディアに熱中して話される時、聴衆をひきつける迫力があります。これからもますますお元気で御活躍される事をお祈りいたします。